



稽古照今

吉森まこと

～議員報告レポート③～

発行：志真会 吉森真人(無所属)
〒936-0023 滑川市柳原68-10
TEL: 090-1543-9903

挨拶

令和6年もはや霜月となり、年越しがすぐそこに迫ってきました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

本年は、能登半島地震をはじめとする自然災害が多発し、防災の重要性を改めて認識する年となりました。私は、市民の皆様の安心安全を守るため、防災士の資格を取得し、地域の防災活動に積極的に参加しております。具体的には、防災マップの作成や、地域の防災訓練への指導などを行っております。

市議会議員1期目では珍しく、議会運営委員会の委員となりました。様々な議案審議に関わり、市民の皆様の声を議会に反映させるよう努めてまいりました。特に、地元の皆様の意見については、現場を確認し各課に対して積極的に伝え、即時の結果につながるよう尽力いたしました。また、政治家としての能力向上を目指し、松下政経塾1期生の林英臣先生の政経塾や中田宏先生の「地方制度研究会」に参加し、全国の議員の方々と共に学びを深めております。特に、政治家を志した私の原点の発掘は、後の活動に大きな影響を与えており、滑川市の課題解決に活かしていきたいと考えております。

皆様が誇れるまち「滑川」にするために、今後も様々な角度から市政に取り組んでまいります。特に、子ども真ん中の社会の実現に向けて、市民の皆様と力を合わせ、より良いまちづくりを進めてまいりたいと考えております。今後とも、皆様からのご意見やご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

右のQRコードは滑川市議会のホームページです。議会の日程や質問事項など載っています。



5年ぶりに柳原のやさこ
(こども神輿)を見まわす
ラブと壮年会で復活

10月



盛岡市で行われた全
国市議会議員会研修フ
ォーラムに会派で参加

10月



メリカにて体験型防災キ
ャンプを1泊2日の日程
で開催

8月

林英臣政経塾
多賀城市にて全国講座が
行われた際に東海講座の
皆さんとの写真

8月





- ①滑川市の防災対策について ②小中学校の施設について ③LGBTQについて

吉森 滑川市の農業従事者数の変遷について問う。

石井農林課長

林業センサスの農業経営体数で比較すると、2005年で1229経営体、2020年では412経営体と15年間で約3分の1に減少している。

吉森 9月定例会にて「富山農林振興センターやJ Aアルプスなど関係機関と連携しながら、農業の担い手の確保に努めているところである」と答弁されたが具体的には。

石井農林課長

富山県農業経営・就農サポートセンターや富山農林振興センター等が実施している就農相談、富山県農林水産公社が実施しているとやま農業未来カレッジ及び就農支援事業と情報共有しながら、若手農業者の掘り起こしや経営継承、新規就農者の支援に取り組んでいる。また、J Aアルプス管内の担い手育成総合支援協議会と富山農林振興センターと連携し、県内の就農希望者と経営体をつなぐマッチングバスツアーや経営継承セミナーを開催するなどしており、令和5年度のバスツアーでは、1名が市内経営体に就農した。

吉森 滑川市として今後農業はどうあるべきと考えているのか。

石井農林課長

次代を担う若い世代に魅力を感じてもらえる産業とするため、持続可能な農業の確立が必要である。関係機関と連携し、スマート農業の推進、将来の在り方等を地域で話し合い、地域計画の策定、また、有機農業をはじめとする減農薬、減肥料に対する支援に取り組む。

吉森 「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」は、支援員等に理解してもらっているのか。

牧田子ども課長

支援員には、ご理解いただいているものと考えているが、新年度に向け基準について改めて共通理解を図るため各クラブへ周知していきたい。

吉森 次回がSDGs未来都市選定の最終年となっているが、本市は今回も応募するのか。また、するのであれば進捗及び内容を問う。

石川総務部長

もう一度提案書の見直しを行い応募する方向で調整している。現時点では、まだ示せる状態ではないが、見直し中の総合計画とも連動させつつ、提案内容が固まり次第示していきたい。特にデジタル等の分野や地域支援を取り入れた形での提案となるよう修正している。

令和6年3月度議会での質問

令和6年3月議会の様子(滑川市議会YouTube)



- ①放課後児童健全育成事業について ②(仮称)こども基本条例制定について
③次世代を担う子どもたちの教育推進について ④GX推進について

吉森 児童数は減っているが、放課後児童クラブを利用する児童数は増加傾向にある。市や保護者側からも受入れ態勢の拡充を要請されており、事業者側も要望に応えるために試行錯誤努力されているが、実施スペースや支援員の高齢化及び成り手不足から、全ての方が満足いするような対応ができていないのが実態である。さらに、数年先の運営継続すら危惧される事業所もある。市は令和6年度から賃金の処遇改善を行うが、市の考え及びほかの対策を問う。

上田教育委員会事務局長

賃金については、令和4年度から40円アップ、令和6年度から130円アップするなど、支援員の意欲向上と新たな支援員確保につなげるために処遇改善を行っている。支援員の確保として、各クラブと連携しながら、地区の実情に応じた対応をするとともに、SNSを通じた情報発信や教員OBへの声かけなどの方策も研究し、受入れ態勢の整備に努めたい。

吉森 (仮称)こども基本条例を制定する目的と、現時点での概要及びスケジュールを問う

上田教育委員会事務局長

子どもの権利と子育て支援についての基本的事項を盛り込み、未来を担う子どもたちの幸せな生活につながる条例にしたい。ワークショップなどで募集する子どもの意見を反映したものを検討委員会での協議により決めていき、令和7年度中に制定する予定である。

吉森 コミュニティスクール（学校運営協議会制度）及び地域学校協働活動の一体的な推進について進捗状況を問う。

上田教育長

これまでにコミュニティスクールの導入に向けて、教育委員会や小中学校の校長との研修や会議等で協議などを進めている。地域行事や学校行事等のコーディネーター役となる地域学校協働本部を設置しないままコミュニティスクールを導入しても、地域との連携が取りにくく、学校や教員の負担が増えてしまうことなども想定される。令和6年度は、保護者や地域等に十分説明するとともに、人材の確保の準備を進め、令和7年度からコミュニティスクールと地域学校協働本部を一体的に実施したいと考えている。

令和6年6月度議会での質問

令和6年6月議会の様子(滑川市議会YouTube)



- ①鳥害の現状と対策について ②ふるさと滑川応援寄附金（ふるさと納税）について
③学校給食費について ④学校教育について ⑤公民連携課について

吉森 アオサギの被害について、自治会も何度も対策を講じてきたが解決に至っていない。大がかりな対策が必要と思われるが、市として猟友会などと協力して解決につなげられないのか。

黒川産業民生部長

社寺境内や墓地、住居が集合している地域、多数の人が集まる場所では、銃による猟やわな猟が禁止となっていることから、平野部の地域において捕獲が困難な状況が多くあり、市としても大変困っている。それぞれの施設管理者で樹木を剪定いただくなど、鳥獣を寄せつけない環境づくりに努めていただきたい。

吉森 令和4、5年度と2年連続給食費を値上げし、令和3年度と比べて、本年4月開始時点では、39円から46円の値上げとなっている。2年前と比べると児童・生徒一人当たり年間で8千円から9千円の負担増であり、値上げを行った年度の値上げ相当分を市が負担し、実質の家庭では次年度からの値上げとなっている。滑川市は全国でもかなり高い給食費となっており、今後はこれ以上の値上げを行わず、不足分を市で補うなどの検討はできないのか。

上田教育委員会事務局長

県の学校給食会により調達している米飯、パン、牛乳などの価格高騰が続いており先行きが不透明な状況である。引き続き、栄養バランスが取れた安全・安心な給食を提供できるよう、メニューや食材選択、調理方法の工夫などに努めるとともに、原材料費の変動も見据えながら学校給食費の検討をしたい。

吉森 教科の枠にとらわれない総合的な学習であり、自発的に問題を見つけて学習する、主体性と対話性が重要視されたSTEAM教育を取り入れてはどうか。

上田教育長

本市においては、科学の時間というものがある。これは特別な教育課程で、市が独自に実施しているもので9年間の学びの中で自然観察、飼育・栽培、ものづくり、知識を深める学習・探究的な学習の4つの柱を設け、教科横断的な教育を通して、課題の発見・解決、社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成を図るものとしている。これは、STEAM教育に共通する点が多いと認識している。

令和6年9月度議会での質問

令和6年9月議会の様子(滑川市議会YouTube)



- ①鳥害の現状と対策について ②ふるさと滑川応援寄附金（ふるさと納税）について
③学校給食費について ④学校教育について ⑤公民連携課について

吉森 本市の地域おこし協力隊は、本年1月に田中啓悟さんが、3月に寒河江大輝さんが就任された。就任され半年以上過ぎたところだが、これまでの活動内容と実績を問う。

柿沢副市長

1名は、空き家対策を主に取り組み、毎月の空き家相談会を実施している。また、空き家・空き地情報バンクを通じた移住希望者とのマッチングやサイトに市内の方々を紹介するインタビュー記事「ナメリカワビト」を掲載している。もう1名は、関係人口の創出を主に取り組み、市外からの訪問者が滞在できる場所や地域の特色を生かした交流の場の提供を目指している。メリカに在席してイベントの協力、実施をし、自らも地域の一員として市内外の方々との交流に取り組んでいる。

吉森 2年目となった「なめりかわ未来学校サマースクール」は、SLハウスでの宿泊以外は昨年と変わらない内容に思えたが、実際はどうだったのか。

上田教育長

昨年度の内容、反省も踏まえ、今年度はプレ企画として、お仕事体験ゲームのワークショップや、保護者・企業向けの講演会、また、参加する高校生、大学生に向けてデザイン思考の講習とファシリテーター研修をオンラインで事前に実施した。サマースクールにおいては一人ひとりの意見がグループ発表により薄まらぬよう自分の意見を伝える手法として、企業において製品開発で用いられる、高速に試作をするという事を目的としたラピッドプロトタイピングを活用して、滑川市をこうしたいというアイデアを立体的で具体的に表現し発表することに取り組んだ。

吉森 HPVワクチンは、子宮頸がん、咽頭がんや肛門がんなど多くの予防効果があり、男性も接種することで子宮頸がんの根絶が早くなる。本年度から多くの市町村で希望する男性に補助している。本市も男性への有効性を周知し、希望者への助成ではなく定期接種を実施すべきではないか。

石川健康福祉部長

男性に対する定期接種化については、厚生労働省においてワクチンの有効性、安全性、費用対効果について議論を行っている段階であり、その動向を見守りたい。

総務文教消防委員会にて視察に行ってきました

静岡県熱海市

官民連携による リノベーションまちづくりについて

- ・2013年に民間主導で始まった、まちづくりのための起業を目的としたリノベーションスクールを通して老朽化した商店街の空き店舗などを活用して、起業していき181店舗の空き店舗が現在は0店舗に。
- ・2015年から市も連携して創業の相談やヒト・モノ・チエをつなぐ役割をしている。
- ・それまで市は、空き家活用事業者に最大40万円の補助を出すだけの支援をしてきたが、2年以内の廃業が多くなり廃止し官民連携に移行。

現在は、滑川市と同じ人口ほぼ同じ面積であるが、観光客の数が違うため、ターゲットや規模に違いはある。しかし、まちづくりにはコアとなる人物が必要で、全ての人に合意形成は取することは出来ないが関係性は大事にして理解ある人との協力をつなぐ役割を行政が行っていると感じた。

静岡県沼津市

公公民連携の推進における リノベーションまちづくりについて

- ・2015年から始まり、空き家空きビル、利用度の低下した公共施設や公共空間を活用事業。
- ・首都圏からのアクセスの良さを活用しUIJターン人材が新たなコンテンツをうみ、それがさらに新たな人を呼び込む連鎖事業としている。
- ・これまでの10年間で市内各所に75の店舗や新たなサービスが生まれている。
- ・市は、補助金は出しておらず、不動産オーナーや家守会社の育成支援、情報発信や交流支援を行っている。また、各手続等行政が得意なところを積極的に支援している。

人口も面積も沼津市の方が大きいですが、空き家等の問題点は同じであった。補助金はできるだけ出さずにいかに賑わいの創出をするかが、ポイント！やはりコアなキーマンが必要だと理解しました。

その他の視察や勉強会、個人的な活動内容等

- ・3月に地方制度研究会の勉強会に参加。参議院会館にて令和6年度の「総務省」「こども家庭庁」の予算概要を確認してきました。
- ・柳原の児童クラブがこれまでに行っていた「やさこ（こども神輿）」を壮年会とともに開催し5年ぶりの復活をはたしました。これまでは櫛原神社の夏季祭礼（8月27日）に行っていたが、近年の猛暑のため自治会や宮委員との協議のもと秋季祭礼（10月27日）に開催。親子総勢130人ほどが参加し活気ある1日となりました。今後も秋季祭礼付近で行います。
- ・今年初めてフルマラソンに挑戦し2回完走しました。何事にも健康で体力が必要と思い始めました